

●●● 干支文字切手 (グリーティング郵便切手) ●●●

来年の干支である「戌・犬・いぬ」の字を題材とした「干支文字切手」をグリーティング切手として発行します。グリーティング切手とは、春夏秋冬様々な季節のご挨拶等においていただける切手です。

◀色々な書体で表現 ～来年の干支「戌・犬・いぬ」～▶

- ①「古篆書の鼎の戌」(※「鼎」…食物を煮るのに使う金属または土製の容器) / 古篆書の鼎に見られる「戌」字より揮毫。形体から受ける書線の骨力、暢達を表現したもの。
- ②「表音文字のいぬ」 / 字母は「以」「怒」。万葉かなを使って、かな文字のもつ優さと力強さをデザイン的に表現。
- ③「表象文字の犬」 / 周代の表象(イメージ)文字。古代文字には霊的な思惟があり、この「犬」もその一例です。
- ④「行書体の犬」 / 平明な中に生氣とぬくもりを表現。
- ⑤「殷代の鼎の戌」 / 殷代の鼎に「象形・金文」で鑄造されていた戌。戌は、農業・刑罰あるいは王の権力の象徴として用いられていたとも言われている。
- ⑥「金文(鳥虫篆)による戌」 / 装飾した篆書体「鳥虫篆」をもとに、新たに創意を加えた作品。
- ⑦「象形文字の犬」 / 甲骨文体による三千年以上前の文字。それ以前から、犬は主に猟犬として共に暮らしてきた。
- ⑧「半瓦当文様の丙戌」 / 屋根を葺く瓦の軒先に出るところを、円形は「瓦当」、半円形を「半瓦当」といい、吉語や紋様が装飾としてあしらわれた。半瓦当は周漢代に多く見られ、円瓦当は漢代以後に多い。文字は篆書を瓦当の形体に合わせ装飾的に造型。
- ⑨「行書体による丙戌」 / 丙はおだやかに、戌は躍動的な面を強い線をもって表現。
- ⑩「戌字(甲骨文)」 / まさかり(刃の部分)を複線表示)の形に象る。十二支の第十一位「いぬ」にあてた。

◀各書体について▶

篆書:周から秦にかけて使われた、均整のとれた荘重美麗な書体。
 鳥虫篆:戦国時代の青銅器で、矛などの兵器や楽器に刻まれた、装飾性の強い鳥や虫の象形を生かした篆書。
 金文:殷・周の時代の青銅器時代に器や金属に刻まれた文字。
 甲骨文字:殷の時代亀甲や獣の骨に刻まれた文字。
 行書:画をやや崩した書体。
 表音文字:漢字の「音」を使用。使われる漢字に意味はなく、「仮名」のもととなった。
 象形文字:物の形を抽象化し、文字化。

◀「エンボス加工」「微小文字」を使った印刷▶

「エンボス加工」は、印刷の段階で強く圧力をかける技法です。文字の一つ一つが点字の様に盛り上がっています。また、切手背景には0.3mmの細かな文字「微小文字」で「平成十八年丙戌2006」とデザインしています。

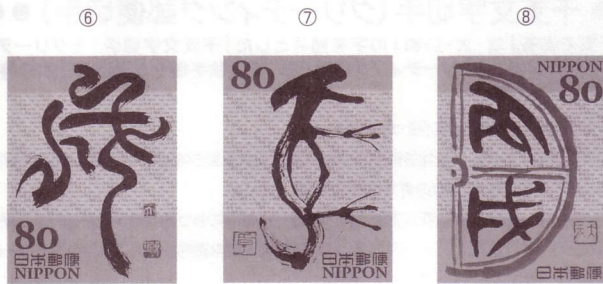
◀円山応挙の「朝顔獅子図杉戸(部分)」▶

シート余白下部には、円山応挙 筆「朝顔獅子図杉戸(部分)」をデザイン。(所蔵:東京国立博物館)
 【円山応挙(1733~1795)】江戸中期の画家。丹波の国穴太村に農民の子として生まれ、幼少のころから京都において狩野派の流れをくむ鶴沢派の石田幽汀に学ぶ。その後、「覗からくり」に使用される「眼鏡絵」の制作で西洋の遠近法・陰影法に触れ、中国の宋元画や花鳥画から写生の手法を学び、写実的な独自の画風を確立した。

えともじ 干支文字切手 (グリーティング郵便切手)



Chinese Zodiac Characters Greeting



種類 80円郵便切手
 発行日 平成17(2005)年12月1日(木)
 意匠 ①古篆書の鼎の戌 ②表音文字のいぬ ③表象文字の犬 ④行書体の犬
 ⑤殷代の鼎の戌 ⑥金文(鳥虫篆)による戌 ⑦象形文字の犬
 ⑧半瓦当文様の丙戌 ⑨行書体による丙戌 ⑩戌字(甲骨文)
 シート構成 10枚(縦に、左4枚・中2枚・右4枚)
 印面寸法 縦33.5mm・横25.0mm

小切れ寸法 縦36.5mm・横28.05mm
 シート寸法 縦222.5mm・横1112.2mm
 版式刷色 オフセット5色・エンボス加工
 書 ①大井 錦亭 ②米本 一幸 ③關 正人 ④加藤 湘堂 ⑤高際 翠邦
 ⑥岸本 太郎 ⑦金子 卓義 ⑧辻元 大雲 ⑨由中 凍雲 ⑩小林 抱牛
 デザイン 森田 基治(切手デザイナー)